

平成28年度

子どもの学ぶ意欲を伸ばす

～自ら進んで学ぶ子どもを育てるために～



小学校の学習は、将来自立して生きていくための基礎となるものです。

とくに「読むこと」「話すこと」「書くこと」「計算すること」などは、社会人として自立する基礎となる欠かすことのできない「生きるための力」です。

本校は、1時間1時間の授業のねらいを明確にして学習を進め、子どもたちの学ぶ力の向上と基礎学力の育成に努めています。また、様々な機会をとらえ、『自ら学ぶことができる子どもの育成』を心がけています。さらに、学校でつけた力を確実なものにし、さらなる力として発揮できるようにするためには、家庭と連携した「家庭学習の習慣化」が不可欠です。

本校では家庭学習＝宿題とは考えていません。家庭学習＝宿題＋自主学習と考えています。子どもたちが、宿題のある無しにかかわらず、自ら進んで課題を見だし学習していく姿を願っています。

そこで、家庭での学習を一緒に考え、見直していくための参考資料として、「家庭学習の手引き」を作成しました。ご家庭の事情やお子さんの実態に合わせながら、家での学習の約束を話し合う際や、支援・声かけのしかたの参考として、ぜひ活用してください。

1 家庭学習の意義

家庭学習がなぜ必要なのでしょう。家庭学習によって、次のような教育的効果が期待できます。

① 学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。特に漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで確かな力として定着していきます。

学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わっていきます。

そして、「わかった」、「できた」のサイクルが、子どもたちの学習意欲を高め、学習に対する前向きさにつながっていきます。

② 脳の活性化

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日くり返し使うことで活発にはたらくようになるのです。鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。小学生のうちからどんどん脳を鍛えましょう。

③ 学ぶ習慣をつける

毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につくことをねらっています。毎日続けることで、学習に向かうことが習慣化されます。毎日少しずつの積み重ねが、確かな力、大きな力となって子どもたちに根付くことを願っています。低学年のうちから毎日欠かさず家庭学習することが大切です。

まずは、机に向かって教科書や本をひらくところからですね。

④ けじめ・がまん強さ・根気・集中力をつける

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの遊びです。この誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ・根気・集中力を養うことができます。時間になったら、テレビを消す、ゲームをやめるなどけじめをつける事も大切です。子どもたちが集中して学習に向かうことのできる静かな環境を用意していただくようお願いいたします。また、テレビやゲームの時間を決めて、学習や読書等の時間をつくり出し、しっかりと確保するように努めたいものです。そのためには、お家の方全員の協力が必要なのは言うまでもありません。

⑤ 家族のふれあい

「本を読んでいるとき、横で聞いてあげる。読み終わったときに、内容について話題にあげてみる」「勉強がわからないとき、一緒に考え合う」など、家庭学習をしている子どもに親が関わることにより、コミュニケーションがはかれます。

家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神的な安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。

また、学校からのおたよりやプリントに目を通し、学校の様子やお子さんの学習の様子に関心をもつことも大切です。こうすることで、子どもとの距離が近くなり、よりよい関係づくりに役立つと思います。

2 保護者の皆様へお願い

家庭学習の効果が高まるように、子どものやる気を引き出すようなかわり、はたらきかけをお願いします。

① 「決まった時間」+「毎日コツコツ」＝「継続は力」

学校では、各学年の応じた宿題を毎日出しています。学習時間の目安は、【学年×10分】です。

学校が休みの日でも、とにかく毎日続けることが大切です。習い事や外出等で予定が組みにくい日もあるかと思いますが。その場合は、先に済ませるとかテレビやゲームはなしにするなどして、休日の過ごし方や、時間の使い方を保護者の方と共に考え合うようにしましょう。

② 「先ず宿題」「次に自主学習」

家庭学習では、先に宿題を行きましょう。そして、時間や余裕がある場合は自主学習に取り組み、家庭学習を充実させましょう。

特に、中・高学年では、自分でめあてをもって自主的な学習に取り組むことが、学ぶ意欲の向上につながっていきます。「決められているからやる、仕方が無いからやる」から「自分からやる」へ意識を変えていくことをねらっています。

③ 集中して学習する

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。長時間学習することで成果があがるとは必ずしも言えません。メリハリのある学習習慣を身につけたいものです。

短時間で集中して勉強することが長続きのこつです。「学年×10分」をおおよその目安にして集中してがんばることから始めてみましょう。

④ 家庭学習に集中できる環境をつくる

テレビを見ながら、音楽を聞きながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」はやめましょう。

また、テレビの音が聞こえるような環境も、子どもは集中できません。どうしても、見たい番組があるときは録画するなどして工夫しましょう。静かに集中して勉強できる環境をつくるのは、親の役目です。

⑤ 整頓された場所で、よい姿勢で学習する

整頓された机に向かって、よい姿勢で学習するようにしましょう。腰骨を立てて【立腰】学習に向かいましょう。

マンガやゲームなど気が散るようなものが近くにあっては、学習に集中できません。親の目が行き届き、本人が安心して集中して学習できる環境づくりが大切です。

自分の机ではなく居間での学習もよいのですが、これまでに述べたような学習環境が整っていることが不可欠です。

⑥ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

親や教師が子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることにより、自信がつき進んで学習しようとする意欲が高まります。小さな成功体験【スモールステップ+エラーレス】の積み重ねが大切です。

つついりうるさくなりがちですが、強制のしすぎや、間違いをきつく叱ることは逆効果になります。頑張っている姿、頑張ろうとする姿を見つめ、励まし、支えていくようにしましょう。

⑦ 学力アップは規則正しい生活・自立から

「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。生活のリズムを整えることが学力向上につながることは、諸調査でも明らかになっています。そして、適度な運動は、全身の血流を活発にし、脳の活性化につながります。また、時間割や学習用具を自分でそろえるなど、自分のことは自分でできることも大切です。自分で見通しを持って活動することが、意欲的に学習することにつながるからです。